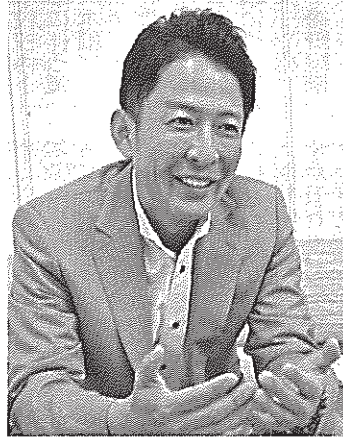


職親プロジェクトが設立4年超え



カンサイ建装工業代表取締役社長

くさかりけんたろう
草刈健太郎さんインタビュー

刑務所や少年院出所者を雇用し再犯防止を目指す職親プロジェクト(PJ)が4年を超えた。建設業の力に携わり、出所者を受け入れ、建設業界で生きる道を提供する。「職親PJが建設業界の人手不足の解消にもつながり始めた」と手応えを感じている。職親PJの現状と今後について草刈社長に聞いた。

(大阪支局 中谷聡)

クローズアップ

安がる者がいたのは事実だ。それでも成功事例を積み重ねる中で利益も生ま

入れてはいる。出所者を受け入れる仕事として建設業界は合っているか。「職人の世界なので体で仕事を覚えることができるとも、即戦力として働いてもらいながら体を動かし

実際に出所者を受け入れるにはハローワークに職親PJとして登録し、刑務所、少年院に向けて募集する。応募があると法務省を通じて連絡があり、刑務所で面接をする。雇入れが決まると、住居など出所後の準備を進める。また、雇入れ

「人手不足解消への手応えを感じ始めている。さらには、国土交通省と法務省が一体となり、受け入れ企業にインセンティブを与えながら進めるなどの対策が必要だ」

建設業界の人手不足 解消につながる手応え

「設立から4年を過ぎ周囲の反応はどうか。以前は出所者を雇っているというだけで仕事が取れないこともあったが、今では活動が浸透したのか特別問題にされることはなくなった。社内でも当初、不

れ、育てることにやりがいを感じるようになった。今までになかった雰囲気も生まれてきた」

「3年半、2年半、1年の3人と半年の3人を受け知ってもらった必要がある。会議に2回出て内容を

れとは違う形で参加する方法もある。ホワイトカラーが多いため雇用が難しいと言われている不動産業界では、出所者のために所有している物件を敷金、礼金、住所登録不要といった条件で提供し支援する者もいる」

「雇入れ企業への支援策はあるか。費用面では、2015年11月に設立した一般社団法人OMOIYARIプロジェクトで賛同企業から寄付金を集めて、雇用主の面接費用、出所時の家賃補助、また、出所した1カ月間続かなかつた場合の家賃支払いなどの支援や、今まで培った失敗例、成功例に基づいたノウハウを伝えながらしっかりと寄り添って支える。他には仮釈放が切れるまで国から月6万円が支給

「設立10周年を目標とした今後の展望は。職親PJの参加企業に300社、1000人ぐら

「職親PJの参加企業に300社、1000人ぐら

「職親PJの参加企業に300社、1000人ぐら

「職親PJの参加企業に300社、1000人ぐら

「職親PJの参加企業に300社、1000人ぐら

「職親PJの参加企業に300社、1000人ぐら